

「視覚的カリキュラム表」で見通しを共有しねらいへ向かう

新潟県 上越市立春日小学校

上越市立春日小学校は、全教科・領域等の年間カリキュラムの一覧表「視覚的カリキュラム表」を学年ごとにつくっている。ランドデザインに示された目標を反映させたカリキュラムをつくり、実践を振り返ることで、子どもに付けたい力を学校全体で育んでいる。

課題

- 自分で考えて意見をまとめ、相手に伝えられない子どもがいた
- 感情を制御できず、相手を傷付けるようなことを言ってしまう子どもも見られた

カリキュラムの概要

- 「二つの力と二つの心」の育成が示されたランドデザインによって教育の方向性を明確化
- ランドデザインを、日々の教育活動に落とし込んだ「視覚的カリキュラム表」を作成し、年間の見通しや教科間のかかわりを意識しながら実践・修正を繰り返す

カリキュラムづくりの流れ

- 4月に学年団で話し合って「視覚的カリキュラム表」を作成。その後は、実践の中で出てきた課題などをその都度反映する
- 長期休業中の全体研修で前学期を振り返り、カリキュラムを修正
- 他学年の実践を全学年で共有しながら、学校として目指す方向を研修の場で確認する

成果

- ランドデザインがカリキュラムに反映され、授業でもそれを意識して日々の教育活動が行われるようになった
- 上記により、子どもが自分の考えを友だちに伝えたり、友だちの話に耳を傾けたりする姿、友だちや地域を思いやる姿が見られるようになった

S c h o o l D a t a

◎1874（明治7）年開校。子どものコミュニケーション能力を伸ばす教育活動を続けており、2007年度から2年間、文部科学省指定の「伝え合う力を養う調査研究事業」推進校に選定された。



校長 西山義則先生

児童数 786人 学級数 29学級（うち特別支援学級6）

所在地 〒943-0802 新潟県上越市大豆1-13-11

TEL 025-523-3859

URL <http://www.kasuga-e.jorne.ed.jp/>

公開研究会 2010年11月19日（金）

「目指す力」と実践をつなぐカリキュラム

課題とカリキュラムの位置付け

グランドデザインを教育活動に 反映させたカリキュラムを作成

戦国武将上杉謙信にまつわる史跡に囲まれた上越市立春日小学校は、全校児童数786人の大規模校だ。1980年代以降、宅地化進行による地域人口の増加に伴い、児童数も増加した。地域の人間関係は希薄化していき、子どものコミュニケーション力の低下も感じられるようになったという。西山義則校長は、子どもの様子を次のように説明する。

「自分の考えを持ってなかったり、思いを相手に伝えられなかったりする子どもがいました。また、感情を制御できず、相手を傷付けるようなことを言ってしまう子どもも見られ、わずかなことが原因で子ども同士のトラブルにつながってしまうこともありました」

こうした課題の解決を目指し、同校は2008年度、学校経営のグランドデザインを作成した際、「考え追求する力」「伝え合う力」の二つの力と、「思いやる心」「愛する心」の二つの心の育成を目標に定めた。子どもの自主性と自律性を高め、社会性を身に付けさせようというねらいがあった。

「グランドデザインによって、学校が目指す教育の方向性を先生方にはつきり示すことが出来ました。しかし、示すだけでは教育活

動での実践は難しく、グランドデザインは『絵に描いた餅』になってしまおうでしょう。全教師がその理念を意識し、教科学習をはじめ、すべての教育活動に盛り込んでいけるよう、グランドデザインを反映させた『視覚的カリキュラム表』をつくっています」（西山校長）

新崎俊博教頭は、カリキュラムは子どもの実態と向き合いつくくるものだと話す。

「授業で重点を置く内容は、子どもの個性や実態によって異なります。当然、カリキュラムもそれに対応させ、重点を置く単元に充てる時間を長くしたり、教科と教科を関連付けて教えられるよう、時期を変更したりといった工夫が必要です。また、そうしなければ、学校として重視する力を効果的に伸ばせません。本校では学年団を中心にカリキュラムを作成しますが、つくっただけで満足するのではなく、子どもと接する中で気付いた課題をどう解決するかを考えながら、絶えず話し合って修正しています」

カリキュラムの概要

全教科・領域の計画が見える 「視覚的カリキュラム表」

「視覚的カリキュラム表」は、全教科・領域等の年間カリキュラムを学年ごとに一覧表にしたものだ（P.23図1）。上越市教育委

員会（以下、市教委）と上越市立学校が連携して進める「上越カリキュラム」（*）の取り組みの一つで、市教委がベースとなるカリキュラム表を作成して全校に配布し、各校はそれを自校の教育活動に合わせてアレンジしている。作業が容易にできるように、カリキュラム表は表計算ソフトでつくられている。カリキュラム表の横軸は時間で、4月から3月までそれぞれの枠があり、体育祭や宿泊体験などの行事を入力する。縦軸は教科で、一教科一段に、内容、時数が単元ごとに書かれる。特徴は次のようにまとめられる。

①年間の見通しを立てやすい

年間の全教科・領域等のカリキュラムが一目で分かり、見通しを立てやすいため、どの



上越市立春日小学校校長
西山義則 Nishiyama Yoshinori
「子どもの実態に合わせて学校を変えていきたい。そのためには、教師同士が自由に意見を述べ合うことが大切」



上越市立春日小学校教頭
新崎俊博 Shinzaki Toshiko
「グランドデザインを基に、子ども一人ひとりを尊重した指導が出来るよう、担任と話し合っていきたい」



上越市立春日小学校
教務主任
戸田正明 Toda Masaki
「子ども一人ひとりの行動や様子を見つめ、気持ちを思いやり、教師として何が出来るかを考えたい」

*「上越カリキュラム」の詳細は、上越市教育委員会学校教育課のウェブサイトからご覧ください

時期にどの内容を扱うのかが把握しやすく、計画的な指導をしやすくなる。

②重点を置く教科を共有できる

教科の並び順は、自由に組み替えられる。重視する教科を最上段や中央など目立つところに配置したり、関連する教科をそばに置いたり、必要に応じて動かせる。教科ごとの高さを広げることも出来、どの教科に重点を置いているかが明確になる。

「二つの力と二つの心の育成」を反映し、多くの学年が道徳、学級活動を重視しており、関連付けられるような近い位置に置いている。

③教科間の関連を意識しやすい

カリキュラム表は、「伝え合う」「追求」などの重視する項目を色分けして表示できる。同じ内容を扱う単元は同じ色で囲む。他教科でも、関連する単元同士を同じ色の矢印でつないだり、同じ色の下線を引いたりも出来る。重視する項目が教科間でどう関連するかを目立たせられるため、教科を横断した取り組みを進めやすい。

重視する項目は各校で設定でき、学校と上越市の教育方針を意識した授業づくりに取り組める。春日小学校は七項目を設けている。五つが「伝え合う」「追求」「思いやる」「地域」「人権同和」と、同校のブランドデザインを反映したものであり、他の二つは、上越市として重視する「上越学習」「(新学習指導要領への)移行措置」となっている。

④時数管理がしやすい

教科の各段は単元ごとに区切られ、その幅割合で決まっている。時数を増減させれば、それに応じて幅も自動的に変わる。教務主任の戸田正明先生は、時数管理がしやすくなったと話す。

「単元ごとの割り当て時数は、カリキュラムをつくる時に設定します。ところが、重視する単元も、重視する度合いも、子どもの様子によって変わってきます。重視する単元には時間をかけて取り組みますが、総時数は限られているため、ほかの単元との調整が必要です。『視覚的カリキュラム表』では、一つの単元と年間総時数との関係を目で確認できるので、時数調整もしやすく、残りの時数を把握してカリキュラムを作成できます」

カリキュラムづくりの流れ

話し合いで課題を明確にし 長期休業中にカリキュラムを修正

「視覚的カリキュラム表」は、毎年4月に市教委が配布する表計算ソフトのデータを基に、学年団が作成する。基となるカリキュラムは、各教科とも教科書の配列通りに単元が並んでいる。春日小学校はこれを並べ替えて独自のカリキュラムにする。道徳、「総合的

な学習の時間」、学級活動のカリキュラムは、学校・学年で重視する教育内容を反映させ、他教科と関連付けながら、すべて自作する。

「学年団は、ブランドデザインの示す方向に沿って子どもの力を付けられるよう単元の配置を工夫し、効果的な教科横断の授業を目指して議論します。カリキュラム表を見ながら話し合うため、出されるアイデアも具体的ですし、この過程を通じて学年で大切にすべき点を明確に共有できます」(西山校長)

4月中には各学年の「視覚的カリキュラム表」がつけられるが、これで完成ではない。戸田先生は、必要に応じて修正すると話す。

「子どもの様子を見て、カリキュラムが合わなければどう変えればよいかを考えることが大切です。このことを、カリキュラムの作成以上に重視しています。週1回の学年会議では、必ずカリキュラム表を見ながら授業の反省点などを話し合います」

他学年の学年団が意見を交換する機会も多く設けている。各学年のカリキュラムづくりやその実践、成果を学校全体で共有するためだ。実践を発表し合うことで、自学年の良さを改めて認識する機会になり、他学年の取り組みから多くの刺激やヒントを得ることも出来る。4月末の職員会議では学年主任が自学年のカリキュラムの特徴やねらいを発表し、夏休みと冬休みには全学年で研修を行う。カリキュラム見直しの大きな機会となるの

「目指す力」と実践をつなぐカリキュラム

図1 「視覚的カリキュラム表」6年生1学期の例

行事等	4月		5月		6月		7月		時数	
	1年生を迎える会		体育祭		6年宿泊体験		5年林間学校			
国語	続けてみよう 一冊に親しみ、自分と対話しよう 「カレーライス」 漢字の形と音・意味		二文章を読んで、自分の考えをもとう 生き物はつながりの中に		今も昔も 狂言柿山伏 柿山伏について 短歌・俳句の世界		三 相手や目的に合わせて書こう ガイドブックを作ろう／よき文章に 漢字の広場② 学級討論会をしよう		読書の世界を深めよう 森へ 本は友達 漢字の広場③	140
社会	わたしたちの地域の歴史 米づくりのむらから古墳のくにへ		聖武天皇と奈良の大仏		源頼朝と鎌倉幕府		3人の武将と全国統一 郷土の武将 上杉謙信		徳川家康と江戸幕府	100
のびやか	見直そうふるさと春日を 佐渡で活躍する人々を調べよう		佐渡との出会いから 感じよう		佐渡での感動を 発信しよう		ふるさと祭り謙信公祭に参加しよう 謙信公祭実行委員さんの講話 謙信公学習(4時間)		探ろう 春日に伝わる「謙信公スピリット」	45
道徳	せんばいの心を受け継いで(愛校心) 江戸しぐさ(礼儀) ○幸せをおくるリーダーに (役割と責任の自覚)		「イチローの夢」ドキュメンタリーDVD(自作資料)(思慮・反省・節度・節制) 義足の聖火ランナー(国際理解・親善)		修学旅行の夜 自由・規律) ○生きるIII「人権の歴史」(生命尊重) ○言葉のおくりもの(友情・信頼、助け合い) ○手品師(誠実・明朗)		○かけがえのない地球(自然愛・環境保全) 土石流の中で救われた命(尊敬・感謝) 白旗の少女(国際理解・親善)			35
学級活動	○最高学年のスタート ○学級の組織作り ○学校生活をリードしよう		○元気にあいさつ(SSE) ○体育祭を成功させよう ○大人に近づく不安や悩み		○思い出に残る宿泊体験学習にしよう(2) ○じょうぶな歯にしよう ○相手の話を上手に聞こう(SSE)		○1学期を振り返ろう ○あたたかいメッセージを伝え合おう(SSE) ○楽しい夏休みにするために			35
家庭	生活時間を見直してみよう		毎日の食事から「上越の食」を見つめる ～上越の米(みそ)文化を味わってみませんか～		1 どんな食べ物を食べているのかな 2 ごはんとみそをしよう 3 おかずの必要性を考えよう		つくろう! さわやか生活 1 暑い季節を気持ちよく過ごそう 2 衣服の着方を考えよう 3 衣服の手入れをしよう 4 生活に役立つ物をつくろう			55
図工	思いを広げて 色を選んで		わたしの町 身近なものを見つめて		地球アート 光と風で					50
体育	体ほぐしの運動 短距離走・リレー、ハードル走、走り高跳び		体ほぐしの運動		病気の予防		クロール、平泳ぎ			90
外国語	Lesson1 今日はどんな日(英語ノートL3)		Lesson2 いろいろな数(英語ノートL7)		Lesson3 トレジャーハンティングをしよう(英語ノートL5)		Lesson4 文房具屋になろう			25
算数	4 いろいろな立体 ●正方形重ねゲーム 1 倍数と約数 2 積や商の見積もり		3 分数 ○仮分数や帯分数の計算		6 単位量当たりの大きさ		○文字と式			175
理科	●地球と生き物のくらし 1 ものの燃えかたと空気		2 動物のからだのはたらき		3 植物のからだのはたらき		○私の研究 ○私の研究 4 生き物のくらしとかんきょう			105
音楽	☆ふしの重なり合いを味わおう。 ●つばさをください ●思い出のメロディー		◇おぼろ月夜(共) ●ラバースコンチェルト		☆世界の音楽に親しもう。 ◎世界の国々の音楽(鑑) ●こげよマイケル ●アンデスの祭り		◇われは海の子(共) ☆いろいろなひびきを味わおう。 ◎小犬のワルツ 他6曲(鑑) ●星空はいつも●風を切って			50
金管	心を一つにドリーム金管									15

カリキュラム表の最上段に、春日小学校が重視する7項目が表示されている。線で囲っている部分は、「伝え合う」「追求」の対応を示したものである。実物は、単元を囲う線はすべて実線であり、色だけが異なるが、本図では「追求」に対応する線を破線で示している。「のびやか」の活動を国語の授業と関連付けたり、学級活動と関連付けたりしていることが分かる。他の項目も同様に色付けされ、重点項目と教科等の単元・内容との関連を一目で把握できる

*同校の資料を基に編集部で作成。「視覚的カリキュラム表」は春日小学校のウェブサイトにて6年生の全体と全学年分をご覧いただけます。<http://www.kasuga-e.jorne.ed.jp/>

は、夏休みの研修だ。この研修では、各学年の1学期の実践を振り返り、ねらいに対して身に付けられた力や課題を明らかにしつつ、2学期以降のカリキュラムについて話し合う。10年度は、8月第1週に、午前中は教科指導での取り組みを検討する「授業実践交流会」、午後は生活科や「のびやか」（総合的な学習の時間）での取り組みを振り返る「生活・のびやか実践交流」を行った（図2）。話し合いに管理職が参加するのも、特徴の一つだ。

「担任は、学級の子どもに意識が集中するあまり、短期的な視点に偏りがちです。管理職の役割は、6年間を通してグラウンドデザインに掲げた『二つの力と二つの心』を伸ばせているかを確認し、課題がどこにあるのかを明らかにして全員で共有することです。学級単位で『こういう力を付けたい』と考えていることを、学校単位で考えていけるよう、導くことが大切だと思っています」（西山校長）

学年団は研修での検討を反映したカリキュラムをつくり、夏休み最終週の職員会議で学年主任が発表する。

「例年、大きく変わるののは、道徳や『総合的な学習の時間』、学級活動です。どのような力を伸ばすために変更したのかを知るために、学年主任には、変えたねらいも説明してもらいます。一方、あまり修正しない教科もあります。それはあくまでも結果です。重

要なのは、全教師がグラウンドデザインを再確認し、カリキュラムと向き合って話し合う過程にあると考えています」（新崎教頭）

同校では、1学期と2学期に、保護者に教育活動に関するアンケート調査をしており、その結果もカリキュラムの修正に反映させる。

「カリキュラムは、いわば教育活動の設計図です。教育活動への評価は、カリキュラムへの評価と言っても過言ではなく、その改善こそが大切です。実践をしてみても、力が付かなかったなら、正直にそれを認めた上で、どこが良くなかったのかを考える。そのような姿勢を持続したいと思います」（戸田先生）

成果

考えを伝える力や 他者への思いやりが生まれる

夏休みの研修では、多くの教師から「6年間を見通して考えることは大切だと改めて思った」という声が聞かれた。「付けたい力を年度末になって急に付けようとしても無理がある。最初からの見通しが必要」という西山校長の考えが確実に浸透してきている。

グラウンドデザインに対する意識も高まっているという。

「管理職の声掛けもあり、学年団の話し合いでは、常にグラウンドデザインに立ち戻って

カリキュラムをつくり、修正しようとしています。それは授業にも生かされ、地域を散策した時、国語の教科書に載っていたタチツボスミレを見付ける活動を取り入れたり、米作りの体験に合わせて道徳で勤労について学ぶなど、『総合的な学習の時間』の内容と他教科の内容を結び付けた取り組みが増えていきます。また、単に体験するだけでなく、感想を友だちの前で発表する機会を設けており、『二つの力と二つの心』を伸ばそうという意識は全学年の授業に見られます」（戸田先生）

学校全体でこのような日々の取り組みを続けた結果、子どもの様子が変化してきた。

「多くの子どもが落ち着いて授業を受けられるようになり、自分の考えをまとめて発言できるようになってきました。意見が友だちと異なる場合には友だちの考えを聞いた上で、自分がなぜその意見を持ったのかを、相手に分かりやすく説明する力も付いてきています」（新崎教頭）

戸田先生は、郷土愛や他者への思いやりも育まれていると話す。

「生活科や『のびやか』で上越市について学んだことにより、多くの子どもがその良さや魅力に気付きました。地域で働く人たちへの感謝に加えて、友だちを大切に作る気持ちを育む機会にもなっていると思います」

西山校長は、今後について次のように話す。「これまで、国語や算数などの教科のカリ

「目指す力」と実践をつなぐカリキュラム

図2

授業の振り返り、交流の様子

1学期の授業実践交流会

- 目的**
- 1学期の授業実践を振り返り、意見を交換
 - 自身の振り返りや他学年の教師との意見交換を通して、目指す子ども像についての成果と課題、2学期以降の取り組みについて学年団で話し合う

- 概要**
- 「授業実践交流会」は1回20分×3回。各回、6グループが同時に行う。発表者は1グループ1人ずつ。他の教師は、グループを自由に選んで参加
 - 発表者は、1学期の実践の一つについて、A4用紙1枚にまとめた指導案を基に、ねらいと取り組みを発表。聞き手の教師が意見を述べる
 - 交流会後、学年ごとに集まり、交流会で得た知見などを共有しながら2学期以降の方向性について20分間検討
 - 管理職は、交流会にも学年での話し合いにも参加。若手教師から話を引き出したり、担任が感じる課題を学校全体の課題として位置付けたりする

実践交流会：2年4組 算数「たし算とひき算」

- 単純な加法減法の計算は出来るものの、文章題を苦手とする児童が多いため、文章題の数値を読み取り、テープ図を用いながら適切な演算を導くことをねらいとした。コミュニケーション能力を育むため、ペア活動を取り入れ、話し合いを通じた課題解決を目指した
- 「ペア活動が、教え合いのようになってしまった」という担任の涌井学先生に、新崎教頭は「3年生の担任の発表を聞き、発達段階としてペア活動は難しいと感じた。教える過程でも学びがあるので、教え合いでもよいのではないか」とアドバイス



学年での話し合い：5年生

- 主な意見**
- 「他の学年でも、自分の意見を言えない子どもへの対応や、グループでの話し合い方に課題があることが分かった」
- 「1学期はグループでの話し合いを行ってきた。2学期は練り合いをより充実させ、友だちをリードできる子どもを育てていきたい」



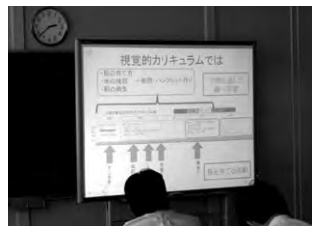
*同校の資料を基に編集部で作成

生活・のびやか(「総合的な学習の時間」)実践交流

- 目的**
- 次の観点から1学期の実践を学年ごとに振り返り、成果と課題を明確化
 - ①「春日を学びのステージとする」という共通テーマからみた取り組み
 - ②「視覚的カリキュラム表」から見た他教科との横断的な取り組み

- 概要**
- 各学年10分ずつ、学年主任が資料を基に1学期の実践を発表する
 - 質疑・応答

- 発表の主な内容**
- 他教科との関連を含めての振り返り。「生活科で行った畑作り・観察と、国語の「観察名人になろう」の単元を関連付けたことで、畑で作った野菜を、大きさ、色、手触りなどさまざまな観点から観察できるようになった」
 - 実践を振り返りながら、2学期以降の授業の見通しについて。「1学期は、「のびやか」と社会科を関連させ、上杉謙信の精神を学習。2学期以降、地元・春日で働く人たちとの交流を通して、今の自分が春日に対してどのような貢献が出来るかを子どもたちに考えさせ、実践させたい」
 - 1学期に実践したことの成果と課題。「個人の調べ学習は充実したが、個人学習に終始してしまったので、2学期は、調べて分かったことや考えたことを発表し合う機会を増やしたい」



◎西山校長の講話 いずれの交流会も、最後に西山校長が講話を行った

- 「良かったのは、「子どもにこういう力が付いた」というように具体的ななまどめをしていた学年があったこと。「二つの力と二つの心」を各教科に落とし込み、実践することで力が付いたのか、付かなかったとしたら原因は何かを考え、積み重ねることが大切」
- 「授業は、先生方の「思い」によってつくられる。熱い思いがなければ、授業の構想をつくることは難しい」

西山校長が重視する

校長としての役割

最も大切なのは、学校の教育活動について自由に、活発に話し合える雰囲気をつくることだと考えます。子どもの実態に合うよう、今までの取り組みをどう生かし、どう変えていくか。これに教師全員が向き合えば、学校の特色は生まれません。

校長としての考えや学校としてのビジョンは「学校だより」などのプリントや職員会議で伝えていますが、それを基に具体的にどのような取り組みをするかは、多様な価値観を持った先生方に提案してもらいたいと考えています。先生方との信頼関係をより深められるよう、会議ではもちろん、日頃も私から積極的に話しかけて、考えを聞くようにしています。

「カリキュラムは教科書の配列通りに進める学年が多かったのですが、グランドデザインをより実践に反映させるには、独自にカリキュラムを組み替える教科を増やす必要があると思います。子どもの力を伸ばしているのかを正確に捉えて、その原因を分析することで、カリキュラムをどう修正したらよいかが見えてきます。今まで以上に日常の子どもの姿をじっくり見取りながら、身に付けたい力を育めるカリキュラムを、教師一人ひとりが考えていける力を高めたいと思います」